

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念を共有し、日々のミーティングやカンファレンスでの話し合いを通して実践につなげている	事務所内に法人理念、事業計画を掲示し、職員間の共有と実践に繋げている。合わせて各ユニット玄関には「共に歩む」の法人理念を掲示し来訪者にもわかるようにしている。また、月1回行う各ユニットのカンファレンスの席上で理念の持つ意味を確認し合い、支援内容の充実に繋げている。家族に対しては入居時に理念に沿った支援について説明している。また、新入職員、中途採用職員については法人が行う導入研修で理念についての理解を深め、現場での支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為交流は難しい状況だが散歩時には挨拶をするなどしている。徐々にではあるが行事も再開され交流の機会ができてつつある	開設以来、地域に開かれ親しまれる施設として参加出来る行事には積極的に参加し、地域の一員として活動している。日々の散歩の際には近隣住民と親しく挨拶を交わす関係が構築されている。新方コロナ禍が続いたことから地域行事の自粛が続いてきたが、5月8日以降の新型コロナ5類への移行を受け、コロナ禍以前のようなお付き合いが少しずつ再開されている。夏には「青山様(男の子の行事)・ぼんぼん(女の子の行事)」で子供達が来訪し利用者も喜ばれたという。また、10月に予定されている地域の「ふれあい健康教室」にもお誘いを受けており参加を予定している。更に、今年は地区の文化祭も予定されており利用者の作品の出品を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して情報の発信に努めている。また介護実習生の受け入れを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為ホームの様子を文章にし郵送にて報告していたが状況を見ながら再開している。意見交換や助言を頂き運営の向上に役立っている	コロナ禍が長引き蔓延中は書面での開催が続いていたが、5月8日以降の新型コロナ5類移行を受け、6月より2ヶ月に1回、対面での運営推進会議を開催している。家族代表、町会長、民生委員、地域包括支援センター職員、ホーム関係者の出席で行い、利用状況、行事、施設内研修等について報告し、意見交換や質疑応答を行いサービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には包括支援センターに参加していただいで協力関係を築くよう取り組んでいる	市高齢福祉課とは必要に応じて連携を取っている。地域包括支援センターとも運営推進会議を始めとしていると連携を取っている。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し、職員が対応している。介護相談員の来訪についてはコロナ禍で中断されたままになっているが、再開されたら積極的に来訪を依頼する予定である。	

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会や施設内研修を通じ何が身体拘束にあたるかを理解しケアに取り組んでいる	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。ホームの周りに坂道が多くあるため玄関は安全確保のため施錠している。外出傾向の強い利用者がいるが、声を掛け話を聞いたり、気分転換を兼ね外を散歩したりして対応している。また、ホールに職員が必ず1名いるようにしきめ細かな所在確認と安全確保に繋げている。転倒危惧のある方が数名おり、家族と相談の上センサーマットを使用している。法人からの身体拘束に関わる資料の読み合わせを年2回行い、更に、月1回開催する身体拘束適正化委員会で拘束に対する意識を高め、拘束ゼロに向けた支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	施設内研修を通じ虐待のないケアに取り組んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加などを通じ学ぶ機会を持っている。必要に応じ関係者等と話し合い活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間を取り丁寧に説明を行い、理解・納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には毎月生活の様子をお知らせしており、電話等において何でも言ってもらえる雰囲気作りを心掛けている	家族の面会については新型コロナ蔓延時には玄関での窓越し面会を行っていたが、5月8日以降の5類への移行に伴い、現在は事前に連絡を頂き、15分位の対面での面会を実施している。また、利用者一人ひとりのホームでの生活については日常の写真とあわせ「身体の様子」「生活の様子」「連絡事項」等を記した手紙を管理者から家族に届け喜ばれている。更に、気づいた事柄については電話にてきめ細かく連携を取るようになっている。コロナ前に行っていた家族会も中断されたままになっているが、コロナの感染状況を見ながら再開したいという意向を持っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見を言える環境作りに努めており、カンファレンスや面接などで意見や提案を聞く機会を設けている	月1回、ユニット毎のカンファレンスで利用者一人ひとりの状態の把握、身体拘束適正化委員会、個人情報の管理、各種勉強会、意見交換等を行いサービスの向上に繋げている。また、人事考課制度があり、年2回個人目標に沿って自己評価を行い、それを基に管理者による個人面談が行われモラールアップに繋げている。	

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に話を聞く機会を設けたり、資格取得に向けた支援を行うなど、向上心を持って働けるよう配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加するよう促したり勤務の調整を行うなど、研修に参加できる機会を確保している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ地域にあるグループホームの運営推進会議に相互に参加し合うなど、交流や情報交換を行っている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の様子を見ながら、表情や会話の中から希望や想いを把握しご本人が安心して生活できるような関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等の要望を聞きながら信頼関係を築いていくよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況を確認しながら必要な支援が行えるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などの出来ることを一緒に行ったり、お茶の時間などに話し相手になったりしながら、共に暮らす者同士としての関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時にはご本人を囲み一緒に話をしたり、外出や外泊などをご家族等に協力してもらいながら、情報を共有し共に支える関係を築いている		

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族へ手紙を書いていたいたり、電話で話すなど出来るだけ途切れないよう支援に努めている	友人や知人の面会は新型コロナ禍が長引いたことから現在も自粛しているが、手紙のやり取りをされている利用者がいる。また、ホームの電話で家族と連絡を取り合っている方もいる。更に、子供さんがハガキを利用者に届け、それに対して、書ける範囲で利用者が書き、職員と共に近くのポストに投函して連絡を取り合っている方もいる。理美容については2ヶ月に1回、顔馴染みとなった訪問美容師が来訪しカットをしていただいている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置や外出時の組み合わせに配慮をしたり、職員が共に会話に参加するなどしたりして、関係がうまくいくよう職員が調整役となって支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて手紙や電話で近況を聞いたり面会に行ったりしながら支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動の中から希望や意向を把握すよう努め、変化を見逃さないよう日々の気付きを共有しながら、カンファレンス等でご本人の立場に立ったケアを検討している	半数位の利用者が自分の想いを伝えることが難しい状況であるが、表情や発した言葉より意向を受け止め希望に沿えるようにしている。また、飲み物や洋服等2~3種類を提案して希望の物を選んでいただくようにしている。日々の生活の中で気づいた事柄についてはタブレットの中のケース記録に纏め、出勤時や申し送り時に情報を共有し利用者の意向に沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人、またこれまでのサービス提供者等から話を聞くなどして把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムや心身状態を注視し、記録やカンファレンス等で情報を共有しながら、現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族との関わりの中から意見や想いを聞き、カンファレンス等での話し合いを通してそのときの状況に即した介護計画を作成している	職員は1~2名の利用者を担当し、居室の整理整頓、衣類の交換、足りない物の補充、誕生日会の準備等を行っている。月1回のカンファレンスで意見を出し合いモニタリングも行い、家族の希望は面会時や電話で伺いケアマネージャーが意見を纏めプラン作成に繋げている。入居時は1~2ヶ月の暫定プランを作成し様子を見て本プラン作成に繋げている。基本的には6ヶ月での見直しを行っているが、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行い、利用者一人ひとりに合った支援に取り組んでいる。	

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の言葉や表情などより詳しくわかりやすい記録に努め、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向に沿ったサービスが提供できるよう、柔軟な支援に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	徐々に地域の活動も再開されているため運営推進会議などを通じて地域の社会資源を把握し利用者様の生活に活かせるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時はかかりつけ医について丁寧に説明し、納得と同意を得られたかかりつけ医に受診できるよう支援している。主治医には状態を報告し、適切な医療が受けられるよう支援している	入居時に医療機関についての希望を伺い、ホームとしての取り組みについて丁寧に説明している。現在、入居前からのかかりつけ医利用の方がおり家族が受診に付き添っている。他の大半の利用者についてはホーム協力医の4週間に1回の往診で対応している。また、協力医療機関の訪問看護師の来訪が週1回あり、利用者の健康管理と合わせ医師との連携が図られ24時間対応となっている。更に、誕生日に合わせ協力医が訪問しての「誕生日検診」により一通りの検査が行われ万全な医療体制が取られている。歯科については必要に応じ協力歯科と歯科衛生士の来訪があり、口の健康にも取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護を含め、必要に応じ気付いた点や状態の変化を伝えて相談し、情報を共有しながら適切な医療を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院に行き状態の把握に努めるとともに、退院に向けた医療関係者との話し合いを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から説明を行い話し合いを始めている。随時ご本人やご家族の意向を聞き、主治医等とも相談し方針を共有しながら、チームとして最後まで安心して暮らせるよう支援している	重度化、終末期に対する指針が有り利用契約時に説明している。入浴や食事を摂ることが難しい状況となり終末期を迎えた時には家族、医師、訪問看護師、ホーム職員で話し合いの場を設け、家族の意思を確認の上、医師の指示の下、改めて看取り同意書にサインを頂き、医療行為を必要としない看取り支援に取り組んでいる。1年以内に2名の看取りを行い、コロナ禍ではあったが家族には居室において最期の時を共に過ごしていただき感謝の言葉を頂いている。また、利用者、職員全員で心を籠めてお見送りをしている。ベテラン職員が多いが、経験の浅い職員については管理者が心のケアを行い、看取り支援に備えている。	

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習や施設内研修などを通じ知識や技術を身に付けられるよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練や大雨を想定した避難訓練などを行い避難誘導や消火器の使い方などの訓練を実施している	年2回消防署へ届け出、また、参加もいただき、併設のデイサービス、隣接のケアハウスと合同で防災訓練を行っている。6月には火災想定避難誘導訓練を行い、利用者を玄関へ移動しての訓練を実施している。合わせてグループホームの職員2名、ケアハウスの職員1名が参加して夜間想定避難誘導訓練を行った。今年9月に大雨を想定した避難誘導訓練を行い、動きの確認や車いすを使用してケアハウスまで移動し訓練を実施している。11月には水消火器を使った消火訓練を予定している。また、定期的に緊急連絡網の訓練を行い防災に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを考え尊厳を大切にしながら、一人ひとりに合った言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの気持ちを大切に、無理強いくことなく優しい声掛けに徹底し気持ちよく過ごしていただくように努めている。特に、排泄介助については配慮し、周りにわからないように小声でお誘いするようにしている。呼び掛けは親しさを込め、苗字に「様」を付けてお呼びし、入室の際にはノックを3回し、返事がなければ今一度3回ノックをして返事の後に入室するようにしている。年1回、プライバシー保護に関する勉強会を行い意識を高め支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉を工夫しながら一人ひとりに合わせ出来るだけ選択が出来るような声かけをするよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの気持ちやペースを大切に、日課などを優先しないよう支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選べる方には好きな服や髪型を自己決定できるようにし、職員が決める場合でもご本人の好みを考慮して決定するよう努めている		

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の希望を聞いたり、毎回の食事を写真に収め反応を記録するなどして一人ひとりの好み等を把握しながら食事に活かしている。また盛り付けや下ごしらえなど出来ることを一緒にしながら支援している	通常であれば職員と利用者が同じ食卓に着き会話を楽しみながら食事を摂っているが、新型コロナ禍が続く現在も共に食事が摂れない状況が続いている。職員の見守りを受けながら自力で摂取できる方が半数強、一部介助の方が三分の一、全介助の方が若干名という状況である。献立は利用者の希望も聞きながら冷蔵庫の中の食材を見て季節感や彩りを考え調理して温かい物を提供している。月1回の行事の際には「蕎麦」は「お弁当」「お寿司」等をテイクアウトしているが、「東雲等」の利用者はかたい物が食べられない方が多くいることから利用者の希望に合わせた「お弁当」を作ってお出ししている。利用者は力量に合わせて下準備や盛り付け等を楽しみながらお手伝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し、一人ひとりの状態や習慣に合わせた支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせて毎食後口腔ケアを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努めながら誘導や声かけを行い、身体機能に合わせた介護用品も検討するなど、トイレでの排泄を大切にケアを行っている	三分の一ほどの利用者が自立しており、他の方は介助が必要な状況となっている。職員は利用者個々のパターンを把握し、タブレットの排泄表も参考に、定時の誘導と合わせて一人ひとりの状況を見て随時トイレにお誘いしている。排便については3日間ない場合はコントロールを行い、「お茶」「コーヒー」「麦茶」などを適時飲み、体操の後の「スポーツドリンク」等も含め、1日1,000cc以上の水分を摂取し排便に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護師等と相談し、食事内容を工夫したり散歩や体操などの運動を行ったりして予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりのペースで入浴出来るよう時間帯なども配慮し、入浴剤等も活用しながら入浴が楽しめるよう工夫している。拒否のある方には無理強いをせず、時間や日を変更するなど状況に応じた支援を行っている	全利用者が何らかの介助が必要な状況となっている。基本的に週2回、入浴を行っている。入浴拒否の方がいるが、時間や日を替えたり、タイミングを見て誘い入浴していただいている。入浴剤を使用し、「ゆず湯」「菖蒲湯」等、季節のお風呂も楽しんでいる。入浴後には「スポーツドリンク」等、冷たい飲み物を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況を見ながら午睡や休息の時間を取るようにしたり、生活のリズムが安定するよう環境を整えるよう支援している		

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報が常に見られるようになっている。変更があった場合には職員に周知し、状態の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話やご家族への聞き取りなどから一人ひとりの好きなことを把握し、家事や散歩、手芸など、利用者様が喜びや役割を持てるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は控えていたが、徐々にお花見やドライブを兼ねたバラや紫陽花の見学など希望や状態に応じて対応している	ホーム内では自力で歩ける方も多いが、外出時には自力で歩行できる方が三分の一おり、他の方は車いす使用という状況である。新型コロナ禍が長引き外出が難しい状況が続いているが、天気の良い日にはホームの周りを散歩し季節の花々を楽しんだり、ベランダに出て外気浴を楽しんでいる。そうした中、感染対策を取った上で春には信州スカイパークにドライブを兼ねバラの見学に出掛け、また、6月には紫陽花見学にも出掛け楽しいひと時を過ごしている。更に、9月には塩尻のブドウ園にブドウ狩りに出掛け、秋の味覚を楽しんでいる。今後も、新型コロナの状況を見ながら季節に合わせて外出を再開していきたいという意向を持っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じてお金を所持してもらい、買い物などの際は支払いが出来るよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて手紙や電話のやり取りを支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間にはのれんやモビール、花などを飾り季節感を採り入れ、また温度や明るさなどはこまめに調整するよう努めている	一日の大半を過ごす共用部分は十分な広さが確保されており、食事テーブルやソファーに腰掛け、体操やテレビを楽しむ寛ぎの場となっている。ベランダからは北アルプスの山々や松本市街地が一望でき、開放感が漂っている。ホール内は利用者職員手作りの季節の飾り付けがされており、現在は「敬老会」の飾り付けが施されている。壁には月1回の行事や外出した時の様子を写した写真が貼り出され活動の様子を窺うことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファーの配置を工夫し、一人で過ごせたり仲の良い利用者様同士でくつろげるよう支援している		



グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れた馴染みの家具などを置いている。また花や写真を飾るなど、ご本人が馴染みのあるものに囲まれ居心地の良い空間になるよう工夫している	整理整頓が行き届き清潔感漂う居室には大きなクローゼットが完備されている。持ち込みは自由で家族と相談の上、使い慣れた筆筒、イス、ハンガーラック、テレビ等が持ち込まれ、壁や筆筒の上には家族の写真や職員から贈られた誕生日のお祝いカード等が飾られ、思い思いの生活を送っていることが窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかりやすい言葉で案内を書いたり、必要な目印を付けたりして、一人ひとりが自立した生活を送れるよう支援している		